

2021年10月10日 午前礼拝 説教:大木英雄牧師
「キリストの復活を宣べ伝えたサウロ」

使徒 9:19~25

- 19 食事をして元気づいた。サウロは数日の間、ダマスコの弟子たちとともにいた。
- 20 そしてただちに、諸会堂で、イエスは神の子であると宣べ伝え始めた。
- 21 これを聞いた人々はみな、驚いてこう言った。「この人はエルサレムで、この御名を呼ぶ者たちを滅ぼした者ではありませんか。ここへやって来たのも、彼らを縛って、祭司長たちのところへ引いて行くためではないのですか。」
- 22 しかしサウロはますます力を増し、イエスがキリストであることを証明して、ダマスコに住むユダヤ人たちをうろたえさせた。
- 23 多くの日数がたって後、ユダヤ人たちはサウロを殺す相談をしたが、
- 24 その陰謀はサウロに知られてしまった。彼らはサウロを殺してしまおうと、昼も夜も町の門を全部見張っていた。
- 25 そこで、彼の弟子たちは、夜中に彼をかごに乗せ、町の城壁伝いにつり降ろした。

使徒 9:19, 食事をして元気づいた。サウロは数日の間、ダマスコの弟子たちとともにいた。

サウロは数日間ダマスコの弟子たちと共にいた。どうしてダマスコの弟子たちがサウロに心を開くことが出来たのか。アナニヤの説明がなければ絶対に心を開くことはできません。

使徒 9:13, しかし、アナニヤはこう答えた。「主よ。私は多くの人々から、この人がエルサレムで、あなたの聖徒たちにどんなにひどいことをしたかを聞きました。

使徒 9:14, 彼はここでも、あなたの御名を呼ぶ者たちをみな捕縛する権限を、祭司長たちから授けられているのです。」

使徒 9:15, しかし、主はこう言われた。「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です。

イエス・キリストの権威に従うとイエス様が働いてくださるのです。

アナニヤが心を開くことが出来なかったように、ダマスコの弟子たちもサウロに心を開くことは出来ませんでした。

使徒 9:17, そこでアナニヤは出かけて行って、その家にはいり、サウロの上に手を置いてこう言った。「兄弟サウロ。あなたが来る途中でお現われになった主イエスが、私を遣わされました。あなたが再び見えるようになり、聖霊に満たされるためです。」

使徒 9:18, するとただちに、サウロの目からうろこのような物が落ちて、目が見えるようになった。彼は立ち上がって、バプテスマを受け、

アナニヤはダマスコの弟子たちに一部始終を話したのです。それでもダマスコの弟子たちはサウロを疑っていたと思いますが、アナニヤはダマスコの弟子たちから尊敬されていたのです。

使徒 9:20, そしてただちに、諸会堂で、イエスは神の子であると宣べ伝え始めた。

そしてただちに所会堂でイエスは神の子であると宣べ伝え始めたのです。私は 30 歳でイエス様を信じました。ただイエス様をすべての人の罪の身代わりとして十字架で死なれた愛の人として人間的に好きだったのです。天地創造の神様が地上を歩かれるなんてことを信じる事が出来ませんでした。イエス様は全人類の罪の身代わりとして十字架で死なれたことは信じられましたが、私の罪のために死なれたことが信じられなかったのです。自分の罪がわかっていなかったのです。そしてイエス様が死人の中から三日目に蘇られたことを信じる事が出来ませんでした。

このような状態でどうしてイエス様のことを宣べ伝える事が出来るのでしょうか。サウロはイエス・キリストは死人の中から三日目に死人の中から蘇ったと信じているクリスチャンを殺していたのです。人間は死んだら終わりです。どんな立派な人でも死んだら終わりです。イエス・キリストは死人の中から三日目に蘇った、そんな馬鹿なことを信じている奴らは殺すべきだと考えて実際に殺していたのです。麻原しょうこうのような人は死んだほうがいいと思いますが、実際に殺しに行く人はいません。しかしサウロは実際に殺しに行き殺していた人です。サウロは絶対に死人がよみがえることはないと思っていました。

使徒 9:4, 彼は地に倒れて、「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか。」という声を聞いた。

使徒 9:5, 彼が、「主よ。あなたはどなたですか。」と言うと、お答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。

イエス様はサウロにあなたが絶対に人間は死人の中から蘇ることが出来ないと信じていたが、わたしは死人の中から蘇ったのだ。サウロは死人の中から三日目に蘇ったイエス様にお会いしたのです。サウロにとって死人の中から蘇ることのできるイエス様は神様です。

私は「イエス様が神様である証拠」というトラクトを書かせていただきましたが、サウロにとってイエス様が神様である証拠はいらないのです。実際に死人の中から蘇られたイエス様にお会いしたのです。

使徒 9:21, これを聞いた人々はみな、驚いてこう言った。「この人はエルサレムで、この御名を呼ぶ者たちを滅ぼした者ではありませんか。ここへやって来たのも、彼らを縛って、祭司長たちのところへ引いて行くためではないのですか。」

これを聞いた人々は皆驚いた。サウロはよみがえられたイエス様にお会いする前は、イエス・キリストが死人の中から三日目に蘇られたことを信じる者を殺していた男が、イエス・キリストは死人の中から三日目に蘇られたと**宣**べ伝えているのです。

使徒 9:22, しかしサウロはますます力を増し、イエスがキリストであることを証明して、ダマスコに住むユダヤ人たちをうろたえさせた。

サウロはますます力を増し、イエス・キリストが死人の中から三日目に蘇られたことを**宣**べ伝えているのです。

ダマスコに住むユダヤ人たちをうろたえさせた。

「うろたえる」=地震が起きたとき驚きあわてるという意味です。

ユダヤ人たちは誰もイエス・キリストが死人の中から三日目に蘇られたと信じていません。日本人も信じていません。日本人にイエス・キリストが三日目に死人の中から蘇ったことを**宣**べ伝えて皆うろたえますか、うろたえません、馬鹿にします。サウロがイエス・キリストが死人の中から三日目によみがえったと**宣**べ伝えたとき皆はうろたえたのです。

使徒 9:23, 多くの日数がたって後、ユダヤ人たちはサウロを殺す相談をしたが、

ユダヤ人たちはサウロを殺す相談をした。悪魔はイエス・キリストが死人の中から三日目に蘇られたことを**宣**べ伝える者を殺していたのです。これは AD313 年にコンスタンチヌスがキリスト教を国教にするまでは、皇帝を神とするかイエス・キリストを神とするかの選択を迫られ、イエス・キリストを神と告白するものは死刑にされました。悪魔はイエス・キリストを神と告白するものを殺すのです。

ヨハネ 11:25, イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。

イエス・キリストを神と信じる者は再臨の時に蘇って永遠にキリストと共に生きるのです。

I コリント 15:54, しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、「死は勝利にのまれた。」とするされている、みことばが実現します。

死は勝利にしたのです。

使徒 9:24, その陰謀はサウロに知られてしまった。彼らはサウロを殺してしまおうと、昼も夜も町の門を全部見張っていた。

使徒 9:25, そこで、彼の弟子たちは、夜中に彼をかごに乗せ、町の城壁伝いにつり降ろした。

使徒 9:26, サウロはエルサレムに着いて、弟子たちの仲間にはいろいろと試みたが、みなは彼を弟子だとは信じないで、恐れていた。

弟子たちがサウロを恐れるのは当然です。サウロはイエス・キリストが死人の中から三日目に蘇られたと信じる者たちを殺していたのですから、

使徒 9:27, ところが、バルナバは彼を引き受けて、使徒たちのところへ連れて行き、彼がダマスコに行く途中で主を見た様子や、主が彼に向かって語られたこと、また彼がダマスコでイエスの御名を大胆に宣べた様子などを彼らに説明した。

使徒 4:36, キプロス生まれのレビ人で、使徒たちによってバルナバ（訳すと、慰めの子）と呼ばれていたヨセフも、

使徒 4:37, 畑を持っていたので、それを売り、その代金を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。

バルナバはみんなから信頼されていたのです。バルナバはサウロの話信じたのです。

使徒 9:28, それからサウロは、エルサレムで弟子たちとともにいて自由に出は入りし、主の御名によって大胆に語った。

使徒 9:29, そして、ギリシヤ語を使うユダヤ人たちと語ったり、論じたりしていた。しかし、彼らはサウロを殺そうとねらっていた。

悪魔はいつもイエス・キリストが死人の中から三日目に蘇られたことを宣べ伝える者を殺そうとします。

使徒 9:30, 兄弟たちはそれと知って、彼をカイザリヤに連れて下り、タルソへ送り出した。

カイザリヤ、エルサレムから北に 90 キロ、地中海に面した町。タルソは今のトルコのイスラエルに近い街です。

結論

使徒 9:15, しかし、主はこう言われた。「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です。」

(A)イエス様がサウロを選ばれたので、イエス様がサウロの伝道を守ってくださったのです。

- ① イエス様はアナニヤを用いてダマスコの弟子たちを説得してくださいました。
- ② ユダヤ人たちはサウロを殺そうとしていましたが、イエス様がサウロを守って町の城壁伝いにサウロをつり下ろし、逃がされました。
- ③ サウロはエルサレムの弟子達にも恐れられていましたが、イエス様はバルナバを用いて、エルサレムの弟子たちにサウロのことを説得してくれました。

(B)私たちが日本人に伝道する方法

I コリント 2:14, 生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわかまえるものだからです。

多くの日本人は天地創造の神様がいらっしゃると思っていない。神様を信じてくださいと言っても、いない神様をどうして信じるのか。と馬鹿にされます。

話は少し脱線しますが、私は高等学校で数学を教えていましたが、数学の嫌いな生徒から「数学は俺の敵だ」と言われてしまいました。確かに高等学校を卒業しても微分や積分を使う生徒は 1 割もいません。卒業しても役に立たない数学を教えていても、むなしくなります。ただ数学の単位を取らないと彼らは留年になってしまいます。留年にならないために私は放課後、補修授業をやりました。私はこんなことをやっても彼らの役には立たないと悩みながらやりましたが、10 日間ぐらいで補習授業が終わったとき、ある生徒が「先生ありがとう」と言ってくれたのです。私は彼から先生をやっていていいんだと言われたようで、うれしかったです。

少し話がそれてしまいましたが、日本人に伝道してもあまり喜んでくれません。私の弟の娘がオリンピックとパラリンピックのお世話係で東京に来ました。小平の実家で 3 カ月ほどひと部屋を与えて一緒に生活しました。明日京都に帰る日に、15 分ほど時間をくれないかと言ったら、いいよと言ってくれました。

- ① 太陽系のモデルを出してきて、ニュートンの天地創造の話をしました。
- ② 神様が人間を造られた証拠の話をしました。
- ③ 人間の罪の説明。

マルコ 7:22, 姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、

姦淫 = 夫婦以外の人と性的な関係を持つこと。

貪欲 = 人間の欲望にはキリがありません。

欺き = うそ。どこのお母さんも子供にうそのつき方を教えるお母さんはいません、しかし子供はお母さんをだますよううそをつきます。

そしり=裁く。その人の前ではその人の悪口を言う人はいません。しかしその人のいないところで陰口を言います。

高ぶり=神様に頼らなくても生きていけると思う心。

④ヘブル 9:27, そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、

人間はみんな死にます、しかし死後に神様から裁きを受けます。死んでまたよみがえった人はいませんので、死後神様の裁きがあることを誰も知りません。しかし死人の中から三日目に蘇った方がいます。イエス様です。死後神様の裁きがあると教えたのはイエス様です。

⑤ローマ 5:8, しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

神様は私達を愛して私たちが受ける神様の裁きを十字架の上で、ご自分の一人子イエス様を身代わりとされたのです。イエス様を信じれば神様の裁きから救われます。

⑥黙示録 3:20, 見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところにはいって、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。

イエス様はあなたの心の戸を叩いておられます。心の戸を開いてイエス様を心の中にお迎えしましょう。次のように祈ることによってイエス様は心の中に入ってきてくださいます。

- 1.私は今日まで気が付かずに罪を犯してきました。
- 2.神様は私を愛して、私の罪の身代わりとしてイエス様を十字架で犠牲にしてくださいました。
- 3.今私は心の戸を開きます、イエス様どうぞ私の心にお入りください。
- 4.イエス様のお名前によって祈ります。
- 5.イエス様は心の中ですか、外ですかと尋ねます。
- 6.中と言って下されば感謝の祈りをさせていただきます。

【説教:大木英雄牧師】